

報告 1

観光・ホテル関係者、上海を訪問

2013年9月から連続して中国からの訪日旅行者数が過去最高(単月)を記録している中、7月16日から19日まで、新潟観光コンベンション協会と新潟市内二つのホテル関係者計4名が上海を訪れました。

中国からの旅行者の特色として挙げられるのが、リピーター率が5割を超えていること、個人旅行の増加です。上海空港は日本の大都市の他、新潟を含む地方空港とも航空路で結ばれ、上海及びその近隣から多くの方が日本に訪れています。今回は増える個人旅行の実態を把握し、上海・新潟線を活かした団体や個人旅行の企画を紹介、意見交換することを目的の一つにしていました。

一行が訪問した旅行社は8社。訪日旅行を担当する職員に資料を広げながら観光農園での果物狩り、漁船に同乗しての漁見学、せんべいの手焼き、ペーパーナイフ製作など新潟で体験できることを旅行プランとともに提案。ある旅行社からは日本での大手建設機械の試乗が子供たちに喜ばれた(石川県)など、観光地を見て回る他に体験型のプログラムも人気の一つであると紹介されました。ホテル関係者も施設の概要、特色をそれぞれ伝えました。

また、日本政府観光局上海事務所を訪問、訪日旅行の話を伺いました。それによると、2013年上海からの訪日者数は13万7千人、浙江省からは5万人でその内杭州からが7割、江蘇省からは団体旅行で5万4千人、その内南京からが6割を超えるといえます。PR先の都市を絞ると効果が出るのではないかと助言をいただいた他、中国の人にとって日本観光の魅力は花見、温泉、買い物、紅葉、スキーなど、そして以前は春節、夏休み、国慶節の頃が訪日客の多い時期だったのが最近は季節に関係なく訪日客数の平準化が進んでいるそうです。

今回初めて訪問できた旅行社もあります。当事務所ではこれら旅行社を含め、新潟の情報を上海はじめ北京、ハルビンなど各地の旅行社に引き続き提供していく予定です。他方、今後一層増えるであろう個人旅行、これら人々にも適切な情報提供が出来るよう様々なチャンネルを使っていく必要があると思いました。(近藤)



旅行社訪問の様子

報告 2

新潟市と日本アニメ・マンガ専門学校が香港ブックフェアに共同出展

2014香港ブックフェアが7月16日から22日まで香港コンベンション&エキシビションセンターで開催されました。当該ブックフェアは香港、ひいてはアジア最大級の書籍国際見本市と言われ、毎年百万人近くの来場者が集まる一大イベントとして、今年25回目を迎えました。海外からの多くの出展団体の中、日本ブースが今年初めて開設され、日本国際交流基金、和歌山県、北九州市、新潟市と日本アニメ・マンガ専門学校(JAM)が出展しました。

新潟は赤塚不二夫、高橋留美子、水島新司等有名な漫画家が輩出した、アニメ・マンガ文化が盛んな町です。さらに、新潟市マンガ・アニメ情報館とマンガの家が去年開設され、アニメ・マンガの体験施設が充実しつつあるほか、にいがたマンガ・アニメフェスティバル、にいがたマンガ大賞等イベントが毎年行われます。新潟市と JAM の共同ブースでは、にいがたまんが大賞作品集、JAM の学生たちのイラスト・マンガ作品集の販売や「ドカベン」等の展示、つけペン体験などを通じてマンガのまちと称する新潟の魅力を来場者に PR しました。意外に思うのは、来場者の中に、数多くの若者が日本のアニメ・マンガのファンであり、日本語学校に通わずネットから日本のアニメやテレビドラマを見ているうちに日本語をしゃべれるようになった人が多いことです。会期は一週間ですが、夜 10 時ひいては 12 時の閉館時間まで来場者が大勢でした。

香港貿易発展局 (HKTDC) によると、今年の香港ブックフェアの入場者数は延べ 101 万人を超え、過去最多を記録したそうです。(鞠)



新潟市ブースの様子



JAM ブースの様子

西園寺 一晃先生の

中国レポート No. 43 2014年7月22日

日中関係は相変わらず厳寒期にある。このような状況の中で気の毒なのは中国内の知日派の人たちだ。冷静な発言をすると、一部の強硬派から「親日」と罵られる。長年日本との交流に携わってきた A さんは、「物言えば唇寒しです」と苦笑していたが、同時に「でも、安倍さんの『反中国包囲網』作り一直線は異常です。中国の中で何とか対日関係を改善しようと努力している人たちの足を引っ張っている」と嘆く。

その日中関係だが、ともすると「尖閣 (中国名「釣魚島」) 問題」や「歴史認識問題」だけが表面化し目立つが、さまざまな分野で日中 (あるいは日米と中国) 間の対立、暗闘が進んでいる。最近話題になっているのは国際金融面での日中の綱引きだ。

去る 5 月にカザフスタンで開かれたアジア開発銀行 (ADB) の会合は、日本が「してやったり」、中国が「怒り心頭」の結果で幕を閉じた。ADB は「アジア・太平洋における

経済成長及び経済協力を助長し、開発途上加盟国の経済発展に貢献することを目的に設立された国際金融機関（ウィキペディア）。設立は1966年で、現在67か国、地域が加盟している。設立当初から日本の旧大蔵省が深くかかわり、大蔵省の意向を強く反映して設立された経緯がある。これまで旧大蔵省、財務省、日銀OBが9期連続で総裁を務めてきた。議決権は出資比率に基づくが、最大の出資国は日米で、それぞれ15.6%。中国は6.4%、インドが6.3%、オーストラリアが5.8%などとなっている。莫大な外貨準備を有する中国は、出資比率を増加させ、ADBにおける発言権を強化しようとしたが、日米など先進国は中国の要望を退けた。そして今回も総裁は日本の中尾武彦氏が就任した。こうして、ADBは依然として日本主導が継続された。

中国の言い分は、1966年からこれまで半世紀近くが過ぎ、国際情勢、国際金融情勢は大きく変わった。ADBも旧態依然の状態から脱却し、現在の情勢に合った形に変えるべきだというもの。中国にしてみれば、すでに世界第2の経済大国になり、世界の外貨準備の3分の1近く有しているわけだから、中国の発言権（貢献度）は増すべきだと考えるのは、ある意味当然だ。ところがそれを阻止しているのが日本だというわけだ。他の先進国には悩ましい事情がある。融資枠を増やして、発展途上国のニーズに応えなければならないが、出資を増やす懐状況ではない。とは言え、中国の発言権があまり強くなるのは困るというのが正直な気持ちだ。

それならばと、中国は思い切った行動に打って出た。「アジアインフラ投資銀行」（AIIB）の設立に動いたのだ。事実上はADBの対抗軸だが、もちろんそうは言わない。「ADBを補完する」（楼継偉財務相）と述べている。ADBの中尾総裁も、表面的には「ADBはAIIBと協調して融資する」と述べている。なかなかの暗闘ぶりだ。

融資を受ける側の発展途上国は、歓迎の姿勢を示している。融資する国際金融機関は多いほど良いし、複数が競争することは受ける側に有利である。さらに融資条件の厳しいADBに比べ、AIIBは融資条件が緩やかになる可能性が高い。韓国をはじめ、中国と領土問題で対立するフィリピン、ベトナムを含め、すでにアジアの16か国が参加を表明し、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、インドなども興味を示している。中国の出資比率などは決まっていないが、設立は来年になる見通しである。このように日本が主導するADBと中国が主導するAIIBが近い将来併存することになる。

中国では、これまでの欧米中心の国際秩序を変えなければならないという機運が高まっている。背景には相対的に弱体化する米国、大国化する中国の力関係の微妙な変化がある。GDPで言えば、2020年頃には、中国のGDPは米国に並ぶと言うのが大方の見方である。多くの研究者は、日本の「集団的自衛権」問題もこの力関係の変化の表れとして取らえている。ある研究者は「米国が相対的に弱体化し、もう『世界の警察官』の役目を担うことが困難となった。至るところで武力介入する経済的余裕もなくなった。しかし米国の覇権は維持したい。そこで一部を日本に軍事的肩代わりをさせるために、集団的自衛権を急がせた。安倍政権は米国に恩を売り、米国の後ろ盾の下で『強い日本』の再現を図り、台頭する中国に対抗するため、あれだけ急いで閣議決定をした」と分析していた。

ともあれ、日中の対立関係は残念ながら多分野にと拡大している。ただ、これ以上の悪化は危険だという冷静な意見も強くなっている。日中とも国内

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏

1944年生まれ

- 明治の元勳・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

に多くの問題を抱え、経済の立て直し、改革、転換が最重要課題であることは同じだ。対立のエスカレートは経済に悪影響を及ぼす。

数年前の「反日暴動」の時と比べ、北京市民の意識は大きく変わった。当時は「日本憎し」の機運が強く、少なからずの人は「日本の全てが嫌い」という方向に流れていた。しかし、現在多くの人は「良いものは良い、悪いものは悪い」と客観的になっている。これだけ日中関係が悪くても、訪日観光客は増え、日本の漫画やアニメを絶賛、和食屋さんも繁盛しているのがその証拠だ。

北京スタッフ便り

人気のある朝食—豆腐脳

みなさん、豆腐脳ってご存知でしょうか。

豆腐は言わなくても知っていると思いますが、脳は何かと疑問に思うかもしれません。疑問に思うかどうか、私は一度聞いてみたいです。ヤフージャパンで、豆腐脳を打ち込むと、豆腐脳に関する文章がたくさん出てきました。そのうち、「豆腐脳とは？」という質問がありました。クリックすると、質問者に対する答えがすごく面白かったです。「豆腐脳とは柔軟な頭です。それは豆腐のように弱くて有用ではありません」と書かれていました。たぶん回答者も豆腐脳はどんなものか、わからなかったのでしょう。



実は豆腐脳（大豆で作ったおぼろ豆腐）って、中国の朝食の一つです。豆腐花とも言います。地方によって、食べ方も違います。南方は甘味、北方は塩味です。南方人は豆腐脳を食べる時、砂糖を入れます。北方人はキクラゲ、ホウレンソウ、シイタケなどを炒めて作った汁を豆腐脳にかけて食べます。私は甘味、塩味両方とも食べたことがあります。塩味のがよりおいしいと思うので、いつも塩味のを食べます。そして、豆腐脳と

油条（ヨーティアオ、小麦粉に水や膨らし粉などを入れ、油で棒状に揚げたもの）のセットは、美味しくて栄養たっぷり、人気のある朝食です。

先日、早く来て、事務所ビルの地下2階にある永輝超市（大手チェーンスーパー）で豆腐脳を買いました。食べた時に、日本人の先生が初めて豆腐脳を食べた時言った話を思い出しました。「豆腐脳は日本にはないようです。日本人の朝食は牛乳とパンのセットが多いです」。ネットで調べたところ、日本でも中国人向け朝市で豆腐脳を売るところはあるかもしれません。日本全体から見ると、豆腐脳はすごく珍しいでしょう。

今度、美味しい豆腐脳の店を探したいと思います。いつか北京へいらっしゃったら、牛乳とパンのセットではなく、豆腐脳と油条のセットを食べてみましょう。（霍）

■ ■ お知らせ ■ ■

「ビジネス支援サービス」をご活用ください。

新潟市の中小企業、団体等が北京市内で経済活動を行うに当たり、様々な支援を行っています。お気軽にお問い合わせください。詳しくはこちらから

http://city.niigata.org.cn/business_support_service.htm